

## 2020年度 こひつじこども園(こひつじ保育園) 自己評価

### <はじめに>

2020年度は、4月の緊急事態宣言の発令とともに始まり、3月初旬も緊急事態宣言が出されていて、1年を通して、コロナ感染に翻弄されました。その中であって、感染を予防しながら子どもたちの育ちを守る保育とは何か、模索しながらの1年になりました。子どもたちにはなるべく我慢させないで自然のままの姿を大切に、大人が気をつけて感染を防いでいくところに力点をおいて取り組みを行いました。

これまでのところ、なんとか保育が守られていますことを感謝いたします。

### <保育目標>

- ・こひつじこども園(2021年度から名称を変更しました)の保育基本方針には「キリスト教精神に基づいた保育」が掲げられています。また、全体の大きな目標として、「神と人とを愛し、愛される子どもに育てる」ことを謳っています。
  - ・保育教育目標は、年間の目標を、園全体、年齢ごとに設定しています。また、それとは別に、1年間を、ホーム(2~5歳児の幼児15~18名のグループ)は8期、スイート(0~2歳児の乳児3~5名のグループ)では7期に区切って、それを「ユニット」と呼び、そのユニットごとに、各年齢別に目標を設定しています。
- 保育目標や基本方針、またユニットごとの目標(保育のねらい)については、新入園児説明会や入園式、園だよりなどを通して、保護者の方にも周知を図っています。園のグループごとの実態に添うようにグループ単位の目標も設定し、その中で個別の子どもの目標もたてています。
- ただ、本年度は年齢別の懇談会を書面で行うことが多く、園としての方針や課題を直接にお伝えする機会が少なくなっていました。

### <保育内容>

- ・保育園全体を3つのファミリー(ひかり、かぜ、いずみ)に分け、保育に当たっています。それぞれのファミリーには、2つのホームと4つのスイートがあります。具体的には、1階と2階にそれぞれ1ホーム、2スイートが同居しています。それぞれのファミリーの独立が保たれるように建物が設計されています。園全体として保育内容を共有するために、ファミリーを超えての会議や話し合いも定期的に行っています。
- ・保育室は、家庭的で温かな雰囲気を大事にし、子どもたちが自発的に好きな遊びができるように、ままごと、のりもの、指先、絵本、チャーム(ごっこ遊び)など多彩なコーナーを用意しています。子どもの興味に応じていろいろな遊びが経験できるように、配慮されています。提供している玩具の種類や数が子どもたちの発達や遊びにあっているかどうかの検討をユニットごとに行っています。
- ・ホーム児は、10:00~12:00の時間、クラスやセンター活動が用意されています。クラスは年齢別の活動で、年長になるにしたがって、回数が増えていきます。センター活動は、子どもたちの主体性や自主性を高めるための取組で、自分のしたい活動を自分で選んで参加します。センターには、2018年に改正された教育法令の「子どもたちの10の姿」を念頭においたセンターがあります。しぜんワークショップ(生命・宗教)、おんがく、うんどう、おはなし(絵本・言語)、たいけん(ごっこ遊び・訪問など)、かたち(造形)、マナ(食育)、わらべうた(伝統文化)などの8つのセンターが用意されています。子どもたちが喜んで選べるような内容であるか、開くセンターの数は適当か、活動に必要な援助が得られているか、など検討しながら行っています。

このように、センター活動でもクラス活動でも、それぞれのホームから子どもたちが集まってくるので、基本的にこひつじこども園の保育形態は共同保育となります。コロナ感染がおこった場合に濃厚接触者の特定が難しいという課題があります。

- ・縦割りの異年齢保育を基本としたグループ担任制をとって25年以上になります。
- 0~5歳児までの異年齢の子どもたちが同室ですごしていることで、子どもたちは小さな子どもへのやさしさや、大きい子どもへの憧れなど、様々な経験を通して、他では味わえない豊かな力を身に付けていきます。
- ・0~5歳児が同居する中で、乳児の安全や睡眠については、一定のレベルで守られています。幼児の遊びの保証については、ホーム専用のお座敷台や年中・年長用の高机などが用意されています。もっと深めた活動ができないか模索している中で、今年度も夏期保育中の間、ホームだけが利用できるホーム児専用室として、カフェテリアを開放しました。乳児がいると制限されている遊びを自由にできる場所として、喜んで参加している姿が見られました。また、こうまぐみ(年長児)は、今年度は10月下旬より毎日午睡なしとし、活動を充実させました。来年度も引き続き、ホーム専用室を設けるとともに、こうまぐみの午睡なしの日を、さらに増やしていき、その時間の活動も充実させていきたいと思っています。

### <発達援助>

- ・同じ部屋ですごすファミリーの会議、ファミリーを超えた年齢の会議などで、子どもの発達状況を確認し合い、保育計画をたてるようにしています。担任だけでなく、複数の目で、一人ひとりの子どもを把握しています。
- ・発達上の課題がある子については、専門家のアドバイスを受けながら、保護者と連携をとるようにしています。また、会

議などを通して、園全体で情報を共有できるようにしています。援助について、もっと具体的に深めていくことが必要だと感じ、今年度も、堺市の障害児視察の専門家に個別相談を受けながら援助を行ってきました。

### <食事・健康管理>

- ・調理室をマナファミリーと呼び、マナセンターと呼ばれる保育（食育）活動を計画的に行っています。
- ・一人ひとりの個人差や食欲に応じて、量が加減できるように工夫しています。0～2歳児については、喫食状況を連絡帳を通じて家庭に知らせています。
- ・ホーム児には、自主性をうながす取組としてカフェテリアで食事をする時間を用意しています。カフェテリアは 11:30～13:00 頃まで開いている、セルフサービス式の食堂です。子どもたちは、好きな時に好きな友達と一緒に行って、食事をします。2020 年度はコロナの感染予防の観点から、夏場はカフェテリアを実施しましたが、秋以降は行うことができませんでした。
- ・職員は、子どもと一緒に同じ給食を食べることを基本として保育を行ってきました。「食べることは生きること」とともに食事をとることが、生きる喜びにつながり食育の基本だと考えていました。ただ、本年度は終盤になって、コロナ感染予防のため、子どもと一緒に食事をするのを取止めました。
- ・食物アレルギー児には、医者による意見書を提出してもらい、家庭とも連携をとりながら、除去食を提供しています。乳児食・アレルギー食担当の保育者と調理の担当者が集まり、除去食の確認を行っています。アナフィラキシーが心配される子どもには、職員が一人ついて食事を提供しています。
- ・感染症の対応については、園での発生状況を必要に応じて、「おしらせナース」の掲示板を登降園のタッチパネルの横に設置して、保護者に知らせています。
- ・嘔吐の処理については、それぞれのお部屋に処理グッズを置いて対応しています。
- ・コロナ感染対策として、毎朝の検温、マスク着用、手洗いなどの基本的な感染対策をしっかりとすると同時に、手指消毒にはアルコール、玩具やお部屋の手毒には次亜塩素酸水を用いて消毒を行いました。

### <行事>

- ・行事のため、保護者に見せるための保育にならないように、日ごろの保育に根差した行事計画をたてるようにしています。各行事には、実行委員会が設けられ、委員会を中心に計画・実施しています。
- ・こひつじこども園には、お楽しみ会、カーニバル（今年度はあそBOフェスタ）、クリスマス会など、保護者の方の参加をお願いするユニークな行事の他に、ホーム親子遠足や年長児対象のお別れ遠足、ホームバイキングや世界の国祭り、ホームお別れ会など、保護者の方にご協力をお願いしたり、子どもたちと保育者が準備し行っている行事がありました。今年度は、すべての行事に見直しを余儀なくされ、園として「行事見直し委員会」を設置して、一つ一つの行事を、安全に子どもたちにとって楽しい行事となるよう検討しました。保護者と一緒の行事が難しくなりましたが、オンラインなども駆使して取り組みました。こうまぐみのお別れ遠足は、緊急事態宣言の下に職員と年長児だけで行われ、楽しくすごすことができました。

### <研修・研究>

- ・保育園全体の研修として、春と秋と年度末、の 1 年に 3 回行っています。今年度の園内研修も、支援の必要な子どもたちの保育を学ぶために、外部から講師を招いて実施しました。具体的な多くの学びを得ることができました。
- ・その研修とは別に、個人で必要な研修が受けられるように、研修日や金銭的な補助を行っています。毎年、ほとんどの職員が、自主的に各種の研修に参加しています。参加した研修については、6月と9月に研修報告の場を設けています。
- ・それぞれのファミリーでは今年度は「心が満たされる」をテーマに取り組みました。実施したことや分かったことを園内に掲示し、子どもや保護者との共有を図りました。
- ・また、今年度も引き続きキャリアパス研修などに参加するとともに、堺市や社会福祉協議会、キリスト教保育団体の主催する「研修」にも積極的に参加するようにしました。公平に、なるべく多くの職員が様々な研修に参加し、自己研鑽の機会を得るようにしたいと思っています。

### <動物飼育>

- ・犬や小鳥、ヤギやアヒルなどの家畜の飼育を行っています。動物を通じて、生き物に興味をもったり、ものを言わない動物の気持ちを汲み取り世話をしたりかわいがったりすることで、思いやりの心が子どもたちに育っていき、命のぬくもり、生きている喜びを味わえることを願っています。
- ・動物アレルギーの子どもたちへの対処をどのようにしていくかが課題です。アレルギー児は2階保育室で生活したり、動物の飼う場所を限定するなどの対策を行っていますが、影響をゼロにすることは難しい状態です。入園説明会などで説明を丁寧に、保護者の理解を根気よく求めていきたいと思っています。

### <地域交流>

- ・複数の地域の老人施設や障がい者施設と交流しており、年間で計画をたてて交流しているところや、随時、訪問してい

るところなどがありましたが、今年度はすべて取止めとなりました。

- ・地域のお年寄りに向けて「こひつじ de ランチ」という、子どもたちと給食を召し上がっていただく催しを月2回行っていました。もともと、一人暮らしのシニアが、子どもたちと日常的に、いつでも来て食事をしていただくことを趣旨として始めた取組みです。ただ、今年度は1度も実施できませんでした。
- ・地域交流のためのファミリーを、にじファミリーと呼んでいます。園庭開放や近隣の方（泉北ニュータウン教会所属）が来られて子どもたちと一緒に楽しむ企画をしていました。今年度は、期間をしばらく規模を縮小して、限定された中で行いました。
- ・「放課後等デイサービスこひつじ」がにじ室にてオープンして3年になりました。卒園児も多く通っており、同じ建物を利用している中で、自然な交流ができていますが、今年度はそれ以上に発展させることはできませんでした。感染状況を見ながら、今後の課題としてまいります。
- ・これからも保育者にも子どもにもボランティアの人にも無理なく、地域の方が喜んでくださる活動を続けていくためにはどうしたらよいか、考えてまいります。

#### <子育て支援>

- ・地域の子育てセンターとして、毎日、園庭開放を行っています。毎週水曜日には、保育者が出て園庭開放を担当しています。ただ、今年度は、緊急事態宣言中や大阪コロナ赤信号の間はお休みさせていただきました。
- ・堺市からの委託事業として、赤ちゃん訪問、一時保育などを行っています。また、地域からの要請で、うさちゃんクラブ（乳幼児対象のあそび場）に協力しています。
- ・本園には、保育経験の豊富な保育者が多く、それぞれ個別に子育て相談に応じています。
- ・懇談会などで、保護者の子育ての悩みに応えるようにしていますが、子育て講習などに発展させていくことが今後の課題です。

#### <卒園児との交流>

- ・多様な人間関係を用意するために、卒園児は中学3年生になるまで、年3回の保育園の行事に、一人ひとりに案内状を出して招待していましたが、今年度は、かないませんでした。お葉書やカードを送ることで交流しました。
- ・卒園児を中心とした「ことごと倶楽部」が開催されています。土曜日の午前中、毎年20回ぐらい行われていました。お琴や三味線、尺八などの演奏をしたり、邦楽に親しむ貴重な機会と、前半の「わらべうた」の時間には、土曜保育の園児も参加しています。多彩な講師とゲストの先生が来られ、園とコラボレーションして、コンサートを行うこともありましたが、今年度は日数も限って人数をしばらくの開催となりました。

#### <情報の発信>

- ・ホームページは月1回、「今日の給食」のブログは毎日更新、「今日のこひつじ保育園」のブログは随時、施設の情報を内外に発信しています。更新の頻度を上げたり内容などを吟味していくことが、今後の課題です。
- ・また、保護者向けには、園だより、給食だより、ファミリーだより、クラスだより、保健だよりなど、各種おたよりを出しています。保育の内容の発信については、今年も、写真を使った掲示をたくさん行い、保育の内容を目で見えるかたちで発信しました。
- ・園からの急な連絡に、今年からよいこネットを用いています。

#### <第三者評価を受けて>

- ・2017年度に受けた第三者評価で与えられた課題を、検討してきて3年になります。自分たちの保育を見直しながら、保育を行ってきました。また、保育参加（保護者の方の都合の良い日に、自由に保育に参加していただき、ありのままの保育を見ていただくプログラム）もコロナ禍でも引き続き行い、保護者の方の率直な意見もいただいて、保育の改善に努めました。

2021年度に第三者評価の再受審を予定しています。

以上